09e16のお蔵入り・短編集

09e16

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ここでは私０９ｅ１６のお蔵入り…設定の不備で改訂したり執筆中に没となった話や設定を載せていきます。

…だからアレですよ過度な期待は厳禁ね？

目次

蒼き雷光関連
REPORT．01【堕ちたる英雄／Fallen Heroes】―1
REPORT．02【英雄の弟／Brother of the hero】―7
読みきり短編
短編：ギャグにしかならない福音事件。―13

蒼き雷光関連

ＲＥＰＯＲＴ．０１【堕ちたる英雄／Ｆａｌｌｅｎ　Ｈｅｒｏｅｓ】

本編開始３年前の３月上旬、
ドイツ某所にて…
この日第２回モンド・グロッソ開催による
警備員を増員するために、
各国から推薦された男女を問わない
腕利きの軍人や警官が
現役の是非を問わずに
開催国であるドイツを訪れていた。
そしてその中に…
彼はいた。
（…まったくよりにもよって

私がＩＳ関連の警備に参加することになるとは…）
そう内心一人自嘲する彼の名前は【ギリアム・イェーガー】…
元アメリカ軍ＰＴ教導隊
通称【ファントム・ダンサーズ】所属だった男だ。
現在はある事情から除隊し
私立探偵をしていたのだが
白兵戦も得意としていたがゆえに
かつての上官から
今回召集されたのだ。
そしてなぜ彼が除隊しなければならなかったのか…
それはこの日から約７年前にさかのぼる。
＋＋＋
７年前
（本編開始から１０年前に相当）
日本近海上空にて…
『ちぃ!!
なんでミサイルが日本めがけて発射されてるんだよ!!』

『さあな!!
とにかく同盟国の危機だ…
ファントムリーダーから各機へ!!
総員…ミサイル迎撃準備!!』
この日世界各所から大量のミサイルが日本へと発射されてしまった。
それを受けた在日米軍は
国防総省からの命令を受ける前に
偶然日本へと教導に来ていた
ファントム・ダンサーズにミサイル迎撃を要請していた。
むろん彼らの保有するＰＴ部隊もまた
各地へと緊急出撃し日本の自衛隊とともに
ミサイルの迎撃をしていた。
そして彼らは東京へと迫るミサイル群へと
接敵しようとしていたのだが…
『…!?
隊長!!
ミサイル群以外に何か見えます!!』

『…ファントム３それは本当か!?』
そう…
『はい!!
白い…なんだあれは!?
どう見ても…ＰＴじゃないぞ!?』
彼らこそが…
この世界における…
『こちらでも確認した…
あれは…白い騎士か？』
オリジナルＩＳ【白騎士】と
最初に接触した者たちである。
『総員未確認機体は無視しろ!!
ミサイル迎撃が最優先だ!!』
その後のことはあまり語らない方がよいだろう…
結果的に公式記録上では
【ミサイルはすべて白騎士に撃墜されたことになっている】
真実は…違うのだが。

こうなった理由は少しずつ増えていた
過激な女性優位主義者の女性議員や
彼女たちに味方する政府関係者の介入があったらしい。
また実はこのときミサイル迎撃優先の判断をした
ファントムリーダーこそが…
（ギリアム隊長…
本当にそれで大丈夫なのかな…）
ギリアムだった。
実際この判断を原因として彼は除隊に追い込まれ…
それと並行してアメリカ軍内のＰＴ部隊そのものが
ほとんど解散させられてしまう。
各国のＰＴ開発企業もなぜかＩＳ関連技術の
政府からの開示が遅れており…
結果的に何社かが倒産してしまう。
…その代わり新たな企業が台頭し始めたのだが。
＋＋＋
そして現在

（私たちから空を奪い…
そしてすべての軍人たちから誇りを奪った
ＩＳの国際試合を警備するか…
堕ちた英雄にはお似合いだな）
そう自嘲を続けるギリアム…
そんな彼に転機がこの先訪れるのだが…
彼はそれを最初恨んだ。
私もアイツらと同じになるのかと。
しかし【時代】はそんな彼の心を無視して
彼に翼を使うことを望んだ。
ＧＯ ＴＯ ＮＥＸＴ ＲＥＰＯＲＴ…
次回予告
日本からくる要人の警護を担当することになったギリアム…
彼の前に警護対象である少年が現れる。
次回
ＲＥＰＯＲＴ０２【英雄の弟／Ｂｒｏｔｈｅｒ ｏｆ ｔｈｅ ｈｅｒｏ】

ＲＥＰＯＲＴ．０２【英雄の弟／Ｂｒｏｔｈｅｒ　ｏｆ　ｔｈｅ　ｈｅｒｏ】

前回から一週間後
ドイツのとある空港にて…
カラカラカラ…
キャリーケースを引きながらひとりの少年が歩いていく…
「えっと…
このあたりにいるはずって聞いたんだけどなあ…」
そうつぶやきながら周囲を見渡す少年…
学生服を着こんでいる彼の名前は【織斑　一夏】
そう…
この日姉から招待された彼は
ドイツで行われる第２次モンド・グロッソの観戦のために
はるばる日本からやってきていた。
そんな彼に…

「あー…Ｍｒ．織斑？」
紫色の髪をした青年が話しかけてきた。
「あ、
…はい俺が織斑です。
えっと…
護衛をしてくれるっていう…」
「ああ…私が護衛役のギリアムだ。」
＋＋＋
回想…
前回ラストから数十分後
「私が日本からくる来賓の警護ですか…
他に誰がついてくれるんですか？
さすがにただの私立探偵に一人でやれとは…
言いませんよねえ？」
そう今回の警備責任者に問いかけ（軽く脅す）るギリアム…
責任者である彼はその脅し（問いかけ）に対して
のけぞりながらも何とか返答する。

「いや来賓といっても選手の弟さんで
一応つけておくだけですから!!
さすがに国家元首とかじゃないんで大丈夫ですから!!」
そういう彼の顔は…
少しだけ青ざめていた。
それもそうだろう、
…彼から見たギリアムは
口元だけが笑って目は一切笑っていないうえに
なぜか室内なのに逆光を背負い
黒いオーラが背中からあふれ出していたのだから…
(ヒィィィィ…)
彼が…
ハンス・ヴィーパーが怖がってもしょうがないのだ。
＋＋＋
時間軸は戻り…
「えっと…
確かこの後はホテルに行って…

明日から始まるもんど・ぐろっそでしたっけ？
それの会場に行く以外では出ちゃだめなんですよね？」
そういう一夏にギリアムは申し訳なさそうに答えた…
「ああ…
さすがに警備につくのが俺だけだと
そうしないと危険だからね。
…すまんな、
観光はまたいつかにしてくれ。」
そしてホテルへと向かう二人だが…
『ターゲットの到着を確認…
これより監視を開始する』
物陰から彼らを見つめる黒い影があった。
この後一夏とギリアムはモンド・グロッソ期間中に
まるで実の兄弟のように
なんだかんだ言っても仲良くなっていく。
ただ…
その後一夏のみ

この期間の記憶があやふやになってしまうのだが。
そう…
読者諸兄もよく御存じであろう…
あの事件によって。
しかし今は…
「…」
（しかし…
前回優勝者の弟を俺一人だけで警備させるか？
…気を付けていた方がいいか。）
（すっげえ物調面…
なんか俺悪いことしたのかな？）
今後のことを考えているギリアムに
一夏は存在しない壁を感じていたが。
ＧＯ　ＴＯ　ＮＥＸＴ　ＲＥＰＯＲＴ…
次回予告
モンド・グロッソ最終日
それまで異常がなかったことで

安心しきっていたギリアムたちに
試練が襲いかかる…
次回
ＲＥＰＯＲＴ０３【英雄再臨／Ｈｅｒｏ　Ｓｅｃｏｎｄ　Ｃｏｍｉｎｇ】
目覚めよ…黒き亡霊よ

読みきり短編

短編：ギャグにしかならない福音事件。

ＩＳ学園の臨海学校において
急きょ銀の福音の暴走対処のために
作戦会議が開かれていた…
風花の間で千冬による状況説明が終わり
専用機持ちたちに対して質問が許可された。
本来の歴史ではそのまま作戦遂行のために
スペックや偵察の有無などが質問されたのだが…
「…？
ゴメン千冬姉…ひとついいかな？」
本来の歴史よりも一夏の頭が少しだけよかったことで
その説明に隠された違和感にたどり着いたのだ。
そう…
「その軍用機の暴走って…

どこから学園に対処要請入ったんだ？
軍用機って作ったらまずいんだろ？
…じゃあアメリカもイスラエルも
他の国や団体に要請出さないんじゃ…」
…そもそも外部に対処要請出せるのかと言った
劇中でスルーされていた問題に。
そしてそれを聞いていたこの二人も気が付いた。
…要請を出すにしてもＩＳ学園ではないはずと言う
当たり前の事実に。
「確かに…
一夏さんの言うとおりですわね。
そもそもこの場合要請を出すならば…
第三国への情報漏えいの危険が大きいＩＳ学園ではなく
同盟国で当事者になってしまった日本政府になるのでは？」
「…教官。
学園側に上層部からの通達に関して
確認はとりましたか？」

千冬は一夏の質問を聞いた際困惑した。
そんなことを気にする必要があるとは思えなかったからだ。
しかしセシリアとラウラの指摘を受けてようやく気が付いた。
…そもそも確かに通達は受けたが
その通達が本当に出ていたのかは確認していなかったという事実を。
そしてこの一件が
「…すまない。
すぐに確認を取る!!」
そうして確認を取った千冬は…
学園側から叱責を受けることとなった。
そう…学園側はそんな通達を一切出していないどころか
そもそも福音の暴走自体知らなかったのだ。
…そして千冬は漸く気が付いた。
あの通達すらも…奴の仕業だったということに。
＋＋＋
その頃、
廊下で出待ちをしていた彼女は

一夏の質問で空気が変わったことを感じ取り
一目散に旅館から逃げ出していた。
「いや～…
まさかいっくんが気付くとは思わなかったなー。
…ちーちゃんもさすがに気付いちゃうだろうし
紅椿の初陣は中止かな～？」
そう言いながら彼女は遠隔操作で福音の暴走を停止させようとする。
しかし…
「…あり？
止まらない？
…まぁいいか。」
後はどうにかなるでしょ？
そういって彼女はこのことから興味を無くした。
…実際アメリカからの要請を受けてスクランブルした
航空自衛隊所属のＩＳ部隊と
日本政府からの要請を受けて一時的に自衛隊所属扱いとなった一夏、
そして姉が関わっていたことを知り自責の念から志願した箒の活躍で

何とか福音は機能停止させることができた。
またこの時暴走や情報かく乱の主犯がほぼ間違いなく篠ノ之束であるということが学園上層部を介して関係各国に知らされることとなった。
＋＋＋
そして数日後。
ＩＳ学園に戻っていた一夏たちは
ある理由で千冬の代わりに自分たちのクラスの担任を1週間だけすることとなった山田先生に頼み込んで放課後空き教室を貸し切った上で
この一件で何が問題だったのかを話し合っていた。
「こうしてみるとやっぱさぁ…
書面のみの通達で千冬姉が動いたのが一番まずかったよな」
一夏のその発言に鈴と箒がうなずく中、
セシリアとラウラはその意見に苦笑しながら
一部訂正する。
「もっと言えば一夏さんや箒さんだけではなく
私たち他国の専用機持ちを対処にあたらせようとしたことも
今回の事件において織斑先生が受けた処分の理由かと」

「…特に私を関わらせようとしたのがまずかったらしい。
我が祖国（ドイツ）とアメリカの双方から苦情が入ったらしいからな…」
そのことを聞いていたシャルロットは顔をひきつらせながら
千冬の受けた処分について口にした…
「織斑先生…減給と休暇中の外出禁止の懲罰受けた上に
この件での関係各所への謝罪を実質一人でする羽目になったんだっけ…」
…そう。
千冬は今回現場責任者として最も重い罰を受けていた。
４か月間の給料３０％カットと
同じ期間だけ学園外への職務以外での外出禁止令。
そして関係各所への謝罪文作成を一人で行うこととなり
担任業務の遂行が不可能となっていた。
…本人も苦手とするデスクワーク主体のこれは
後に本人が語ったところによると解雇されるよりもきつかったらしい。
（関係各所からすると阿鼻叫喚のドシリアスだけど）
一夏たちからすれば［ギャグにしかならない福音事件］…
これにて終幕である。